

- 問1 年間を通じて降水量が極めて少なく、地表からの蒸発量が降水量を上回るために、樹木がほとんど育たず砂や岩の景観が広がる気候を何といいますか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)

1. 砂漠気候

2. ステップ気候

3. 地中海性気候

4. ツンドラ気候
- 問2 東南アジアに位置するインドネシアは、多くの島々からなる多民族国家ですが、この国について述べた次の文のうち、信仰されている宗教とその特徴について説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 京都府公立入試 類似)

1. 西アジアのアラビア半島で誕生し、メッカを聖地とするイスラム教が、かつての海上交易などを通じて広まり、現在では国民の大多数を占めている。

2. かつてヨーロッパ諸国の植民地であった影響を強く受け、近隣のフィリピンと同様に、キリスト教を信仰する人々が人口の大部分を占めている。

3. インドで誕生し、東南アジア一帯に広まった仏教が、急激な都市化が進む現在においても、社会制度や生活習慣の根幹をなしている。

4. 特定の宗教が多数派になることはなく、独自の伝統的な信仰に基づき、仏教、キリスト教、ヒンドゥー教がほぼ均等な割合で共存している。
- 問3 熱帯の島々で見られる伝統的な住居は、木の支柱とやしの葉などを用いて作られ、床を高くし、壁をほとんど設けない構造になっています。このような住居の仕組みとなっている背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)

1. 冬の寒さが非常に厳しいため、床を高くすることで地面からの冷気が伝わるのを防ぐため。

2. 季節による気温の変化が激しいため、外気の影響を直接受けないように通気性を調整するため。

3. 降水量が極めて少なく乾燥しているため、わずかな風を取り込んで室内の乾燥を防ぐため。

4. 年間を通じて気温と湿度が高いため、風を通しやすくして、熱や湿気がこもるのを防ぐため。
- 問4 オーストラリア大陸北部の沿岸部で見られる気候の特徴について、降水量の変化に注目して説明したものとして正しいものはどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. 回帰線付近の乾燥帯に属するため、年間を通じて雨がほとんど降らず、植生が全く見られない。

2. 年間を通じて安定した偏西風の影響を受けるため、季節による降水量の変化がほとんどない。

3. 南半球の冬にあたる7月～8月頃に雨季となり、夏は乾燥する地中海性気候が広がっている。

4. 南半球の夏にあたる12月～2月頃に雨季となり、降水量が集中するサバナ気候などが見られる。
- 問5 南半球に位置するアルゼンチンのブエノスアイレスに見られる気候について、1月前後に気温のピークがあり、7月前後に気温が下がるという季節変化が見られます。また、降水量は一年を通じて極端に乾燥する時期がなく、一定の量が維持されています。このような、温帯の中でも四季の変化がはっきりしており、年間を通じて降水量がある気候を何と呼びますか。 (2023年 富山県公立入試 類似)

1. 地中海性気候

2. サバナ気候

3. 西岸海洋性気候

4. 温暖湿潤気候
- 問6 オセアニアのツバルのような高温多湿な地域と、ロシアのヤクーツクのような冷帯で永久凍土が広がる地域の住居には、ともに床を高くした「高床」の仕組みが見られます。ヤクーツクにおいて、このように床を高く設計する理由として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)

1. 夏季の激しい降雨によって発生する大規模な洪水から家財を守るため

2. 乾燥した地域において、砂嵐による床下への土砂の流入を防ぐため

3. 建物の熱が地盤に伝わって永久凍土が融け、建物が沈むのを防ぐため

4. 建物全体を凍結から守り、冬季の激しい降雪による埋没を避けるため
- 問7 温帯の気候区分のうち、北半球にある都市では7月頃に、南半球にある都市では1月頃に、それぞれ降水量が極端に少なくなり乾燥する特徴を持つものがあります。このような、夏季に乾燥し、冬季にある程度の降水量がある気候区分を何と呼びますか。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)

1. サバナ気候

2. 西岸海洋性気候

3. 温暖湿潤気候

4. 地中海性気候
- 問8 熱帯の高温多湿な気候に適しており、その根からとれるデンプンがタピオカの原料としても利用される、赤道周辺の地域で重要な食糧源となっているイモ類を選びなさい。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)

1. 小麦

2. キャッサバ

3. ジャガイモ

4. ぶどう
- 問9 世界の都市の気候について述べた次の文のうち、一年を通して降水量が極めて少なく、気温が高いという特徴を持つカイロの気候的背景を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 京都府公立入試 類似)

1. 赤道低圧帯の影響により、一年中強い日差しが降り注ぐが雨は降らない。

2. 亜熱帯高圧帯の影響を強く受けるため、上昇気流が発生しにくく乾燥する。

3. 偏西風が山脈を越えて吹き降りる際に乾燥し、高温をもたらす。

4. 寒流の影響を強く受けるため、大気が安定して雨が降らなくなる。
- 問10 ロシアなどの高緯度地域において、地下の土壌が一年中凍結している層の名称と、その地域で見られる住居の工夫の組み合わせとして正しいものを選んでください。 (2024年 千葉県公立入試 類似)

1. ツンドラ — 強風から建物を守るため、地面を深く掘り下げて半地下の構造にする

2. ボドゾル — 寒さをしのぐため、建物の壁を厚くし、窓を二重や三重の構造にする

3. 永久凍土 — 建物が傾くのを防ぐため、柱を深く打ち込み、床を高くして地面から離す

4. タイガ — 針葉樹を豊富に利用するため、丸太を積み上げたログハウスにする
- 問11 スウェーデンなどの先進国にみられる、各年齢階層の割合が上下で比較的均等であり、人口増加が安定している国の人口ピラミッドの特徴として最も適切な記述はどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)

1. 出生率と死亡率が共に低く、年少人口から生産年齢人口にかけての幅が比較的均等になっている。

2. 生産年齢人口の流入が著しく、特定の年齢層だけが左右に著しく張り出している。

3. 出生率が高く多産多死の傾向があり、底辺が広く上に向かって急激に狭くなっている。

4. 出生率が極めて低く高齢化が進んでおり、年少人口の割合が底辺で極端に狭くなっている。
- 問12 ある地域の住居の特徴を調べたところ、「スコールなどの激しい雨を素早く流すための急勾配の屋根」と「地面から数メートルの空間を空けた高床式の構造」が見られました。この地域における気候の特色と住居の工夫の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)

1. 降水量が極端に少ないため、貴重な雨水を屋根で集めて地下に貯める工夫

2. 一年中気温が低く地面が凍結しているため、建物の熱で地盤が緩まないようにする工夫

3. 夏と冬の気温差が激しいため、厚い壁で外気を遮断し室温を一定に保つ工夫

4. 年間を通じて高温多湿であるため、激しい雨を流しつつ通風を確保する工夫

答え合わせ・解説

問1	答え 1 砂漠気候	降水量が極端に少ない地域では、植物が成長するために必要な水分が地表に留まらず、蒸発する水分の方が多くなってしまいます。この乾燥によって森林が形成されないのが特徴で、温帯の乾燥した地域や熱帯の回帰線付近によく見られます。
問2	答え 1 西アジアのアラビア半島で誕生し、メッカを聖地とするイスラム教が、かつての海上交易などを通じて広まり、現在では国民の大多数を占めている。	インドネシアは世界最大のイスラム教徒人口を抱える国として知られています。イスラム教は7世紀にムハンマドによって現在のサウジアラビアにあるメッカで開かれましたが、13世紀頃からムスリム（イスラム教徒）の商人による海上交易を通じて東南アジアへも伝わりました。フィリピンはスペインの影響でキリスト教徒が多い一方で、インドネシアはオランダの植民地時代を経てもイスラム教が深く根付いたという歴史的背景があります。
問3	答え 4 年間を通じて気温と湿度が高いため、風を通しやすくして、熱や湿気がこもるのを防ぐため。	住居の構造は、その地域の気候条件と密接に関係しています。熱帯地域では、激しい雨（スコール）や高い気温、高い湿度への対策が不可欠です。壁をなくして通気性を高めることで体感温度を下げ、高床式にすることで地面からの湿気や害虫の浸入を防ぐ工夫がなされています。これに対し、壁を厚くしたり窓を小さくしたりする工夫は、砂漠などの乾燥帯や、寒さの厳しい冷帯・寒帯の住居に見られる特徴です。
問4	答え 4 南半球の夏にあたる12月～2月頃に雨季となり、降水量が集中するサバナ気候などが見られる。	オーストラリア北部は低緯度の熱帯地域に属しています。南半球の夏（12月～2月頃）には赤道付近の湿った空気が流れ込むため雨季となりますが、冬には乾燥した風の影響で乾季となります。このように明瞭な雨季と乾季があるのが特徴です。一方、地中海性気候は大陸南西部のバース周辺などに分布しています。
問5	答え 4 温暖湿潤気候	南半球では北半球と季節が逆になるため、1月に気温が最も高くなります。この地域では温帯の中でも四季が明瞭であり、地中海性気候のように夏季に乾燥するなどの偏りがなく、一年を通じて安定した降水量が得られることが最大の特徴です。日本も大部分がこの気候区分に属しており、季節風（モンスーン）の影響を強く受けます。
問6	答え 3 建物の熱が地盤に伝わって永久凍土が融け、建物が沈むのを防ぐため	ヤクーツクのような寒冷地では、地下に永久凍土が広がっています。冬場の暖房の熱が直接地面に伝わると、地中の氷が融けて地盤が緩み、建物が傾いたり沈んだりする恐れがあります。そのため、床を高くして地盤との間に空間を作り、熱を逃がす工夫がなされています。一方、ツバルのような高温多湿な地域では、風通しを良くして湿気や暑さを和らげるために高床が用いられており、同じ建築様式でも地域によって目的が異なります。
問7	答え 4 地中海性気候	温帯の中でも、夏季に亜熱帯高圧帯の影響を強く受けることで雨がほとんど降らず、冬季に偏西風や前線の影響で一定の降水が見られるのが地中海性気候の特徴です。北半球と南半球では季節が逆転するため、乾燥する時期も半年ずれることになります。西岸海洋性気候は年間を通して降水量の差が小さく、温暖湿潤気候は夏季に降水量が多くなるため、夏に乾燥するという点が判別の決め手となります。
問8	答え 2 キャッサバ	熱帯地域では、激しい雨（スコール）や強い日差し、痩せた土壌という厳しい環境でも育つ作物が求められます。キャッサバはこうした環境への適応力が高く、アフリカや東南アジア、南アメリカなどの赤道に近い地域で主食として、あるいは輸出用の加工原料として広く栽培されています。
問9	答え 2 亜熱帯高圧帯の影響を強く受けるため、上昇気流が発生しにくく乾燥する。	カイロは砂漠気候（乾燥帯）に属しています。この地域は緯度20度から30度付近に位置しており、年間を通じて亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響下にあるため、下降気流が卓越します。下降気流が発生する場所では雲が作られにくいため、降水量が極端に少なく、日差しが強いため気温が高くなります。対照的に、赤道低圧帯は多量の雨をもたらす性質があります。
問10	答え 3 永久凍土 ― 建物が傾くのを防ぐため、柱を深く打ち込み、床を高くして地面から離す	一年中凍結したままの土壌を永久凍土と呼びます。この地域では、建物の熱で凍土がとけると地盤が緩んでしまうため、柱を硬い凍土層まで深く打ち込み、床を高くして建物の熱を地面に伝えない工夫がなされています。選択肢にあるポドゾルは寒冷地に特徴的な灰白色の土壌、ツンドラは樹木の育たない寒帯の植生、タイガは冷帯に広がる広大な針葉樹林を指す用語であり、住居の構造の直接的な理由とは異なります。
問11	答え 1 出生率と死亡率が共に低く、年少人口から生産年齢人口にかけての幅が比較的均等になっている。	つりがね型の人口ピラミッドを持つ国では、出生率と死亡率が共に低く抑えられており、年少人口と生産年齢人口の幅がほぼ均等で安定した形状を示します。
問12	答え 4 年間を通じて高温多湿であるため、激しい雨を流しつつ通風を確保する工夫	熱帯雨林気候では、午後「スコール」と呼ばれる激しい雨が降るため、屋根には雨水がたまらないよう急な傾斜がつけられています。また、常に気温が高く湿気が多いため、高床構造にして風通しを良くすることで、日本の夏以上に厳しい蒸し暑さに対応した住環境を作り出しています。これらは現地の自然環境に適応した機能的な建築様式といえます。